

防災に女性の視点を

災害対応に女性が主体的に参画し、女性と男性のニーズの違いを十分に配慮することは地域の防災力向上につながります。自分や家族、社会を守るために必要な知識や知恵、工夫が詰まった図書をご紹介します。

※書籍右横の番号はセンターでの検索番号です。



**被災ママに学ぶ
ちいさな防災のアイデア40**
東日本大震災を被災した
ママ・イラストレーターが
3・11から続けている「1日1防災」
2017年 学研プラス
アベナオミ（著）
[100-3]

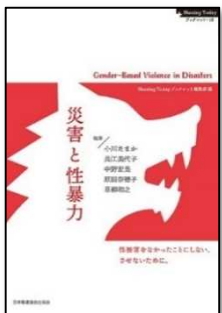
東日本大震災の「そのとき起きたこと」を振り返り、「あの時あってよかったモノ」、「あの日から始めたこと」へと続き、「ミニマル防災の基本」、「想像するための視点」へと続く「生活に根差した防災」を紹介する本書。ナーバスになりすぎず、生活の一環として楽しみながら、自分のできる範囲のミニマルな防災を勧める。

いざというときを想像すると「自分に必要な防災」が見えてきた。生活を少しずつ見直してモノを減らし、スッキリ生活することに。私は、小さな一歩ではあるが、水を汲んでおこうと思う。(ぽっと)



災害女性学をつくる
2021年 生活思想社
浅野富美枝・天童睦子（編）
[400-3]

「阪神淡路大震災」は耐震性の乏しい住宅に住んでいた高齢女性たちの命を奪ってしまった。その被害状況は、ジェンダー不均衡による経済の仕組みが「災害の不平等」にもつながることを明らかにした。同時に「成人男子・健常者」の視点で運用される避難所で、女性たちの尊厳と人格を損なう問題が多発していたことも明らかにした。「東日本大震災」から10年を経て、災害時のあらゆる問題をジェンダー視点で研究する新たな学問が始まった。「災害女性学」、誰もが安心できる社会の実現を目指してぜひ、本書で学びを。(みっと)



**Nursing Today ブックレット・18
災害と性暴力
—性被害をなかったことにしない、
させないために。**
2023年 日本看護協会出版会
小川たまか・長江美代子・中野宏美・
原田奈穂子・草柳和之（著）
Nursing Today ブックレット編集部（編）
[700-0]

災害発生後、避難先などで起こった性暴力。「そんなときに?」と思うかもしれないが、それは事実。性暴力は相手の人権をないがしろにしていることの現れで、非常時にはより顕著になる。

本書は、加害に至る心理、被害に遭っても普段以上に声を上げにくい災害時の状況、被害者への対応・支援の方法、報道の在り方、社会的弱者に配慮した避難所づくりなど、多様な視点から性暴力を考えたものである。被害者を生まないためには、加害者を生まないこと。どちらも皆無になることを心から願う。(こなつ)



**特集 災害とジェンダー2023
誰も取り残さない社会へ**
BIOCITY ビオシティ
季刊誌 2023年 93号
2023年 ブックエンド
萩原なつ子・国立女性教育会館(NWEC)
(特集企画・監修)
糸長浩司・吉田尚也(監修)
[1000-1]

災害の影響は性別や年齢、障害の有無などで異なり、社会的弱者ほどより大きなダメージを受ける。防災・災害支援を考える場に、その声を届けるための、より多くの女性の参画が求められている。

本特集には、JICAの田中由美子氏の基調論文他、男女共同参画の視点に基づいた地域防災活動等に取り組んでいる7名の報告が収録されている。写真も多く、実際の防災訓練の様子がよく分かる。平時からの「取り組み」こそがより良い未来に近づく唯一の道。

まず、防災の今を知ることから始めよう。(ルナ) 書